



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



平成 23 年度昭和大学卒業式・学位記 伝達式開催される

歯学部長 宮崎 隆

平成23年度昭和大学卒業式が、去る3月15日に五反田「ゆうぽうとホール」において執り行われました。薬学部が6年制の初めての卒業生を出し、歯学部にとっても第30回という節目の年になりました。



式は午前10時に昭和大学管弦楽団の演奏(ビバルディの四季)で開会しました。校歌斉唱に引き続き、各学部の総代に片桐学長から学位記が授与されました。歯学部97名の総代は田代博子さんでした。引き続き学長から「至誠一貫の精神を忘れず、各分野の医療人として患者のために楽な道を選ばず、つらい努力も厭わず、真に社会奉仕する道を求めるように」と告辞がありました。小口理事長からは「本学が輩出する医療人は高い倫理性と人格を備え、教養のある真の社会のリーダーになって欲しい」と祝辞がありました。

各種表彰に移り、歯学部関係では、上條賞を田代博子さん、同窓会賞を中村千穂さん、佐藤麻梨香さん、多木陽子さん、そして上條旗ヶ岡賞をバレーボール部の立川哲史君が受賞しました。



四ノ宮父兄会長から卒業生に記念品贈呈があり、在校生送辞(歯学部5年伴田みさとさん)と卒業生答辞のあとに、今年度から始めてですが、卒業生と昭和大学関係者で「昭和大学宣言」を高らかに唱和しました。卒業の歌(贈る言葉)斉唱のあと、最後に恒例となった応援指導部による卒業生へのエールがあり、11時45分に閉会しました。

引き続き各学部に分かれて午後12時半から、歯

学部は旗の台校舎4号館500号室において、学位記伝達式が執り行われました。宮崎歯学部長、岡野病院院長、飯島同窓会長の挨拶に引き続き、卒業生全員に宮崎歯学部長から学位記が伝達され、引き続き学生表彰、記念品贈呈および花束贈呈を行い、上條学生部長の挨拶で午後1時半に閉式しました。

学生表彰者は以下の通りです。歯科医学生賞: 船登咲映, 齊藤美紀子, 遠藤祐人, 学生部長賞: 浅見拓哉, 教育委員長賞: 上田英範, デンツプライ賞: 二宮卓也, 井出翔太郎, 歯科補綴優秀賞: 池谷賢二, 川満絢子(敬称略)卒業生代表の久保旭央君から大学に記念品としてスポーツミラーが贈呈されました。卒業生には配布された卒業までのロードマップを忘れず、コンピテンシーを折りに触れては読み返し、今後各方面で活躍されることを祈念します。

謝恩会が行われました

教育委員長 井上美津子

平成23年度歯学部第30期生の謝恩会は、3月15日の卒業式の後に帝国ホテルにて開催されました。昨年は東日本大震災の直後ということで、行うかどうか様々な議論がなされ、学生の意向に任せるとの大学の判断でやっと開催が決まった経過がありますが、今年は前日に軽い地震はあったものの無事開催されました。いつも歯科医師国家試験合格発表前のどきどきの時期ではありますが、学生、ご父兄、教員それぞれが6年間の学生生活に思いをはせました。宮崎学部長の祝辞と岡野病院長の乾杯で会は始まり、小口理事長、片桐学長、飯島同窓会長から祝辞をいただきました。学生の立場で接する最後の機会でもあり、それぞれお世話になった先生方と記念写真を撮る姿も多く見られました。歯科にとっては厳しい時代ですが、昭和大学で学んだことを忘れずにくましく歯科医師人生を送ってほしいと思います。第2部は学生によるランキングの発表で授業がわかりやすい先生、熱意のある先生、かっこいい先生などが表彰されました。記念撮影の後、実行委員長からの教職員やご父兄への感謝の言葉で会は幕を閉じました。



定年を迎えるにあたって

歯科補綴学講座 古屋良一

私は本年3月31日に定年退職を向かえます。それに際して、本学歯学部で過ごした30年余りを振り返って見たいと思います。

昭和46年東京医科歯科大学歯学部を卒業後、大学院歯学研究科にて補綴学を専攻、昭和50年に課程を修了、第2歯科補綴学教室の助手に採用されました。その後、昭和52年から2年間スウェーデンイエテボリ大学歯学部歯科補綴学教室に留学しました。帰国後、昭和58年1月に歯学部第1補綴学講座の助教授として赴任しましたが、実はその3年前から、歯学部第1回生の冠橋義歯学の模型実習が開始された時に兼任講師となり、学生の指導に当たっていたのです。常勤の助教授となった年は、歯学部第1回生の卒業と重なり、新卒業生が多数入局し、それに大学院の1期生も向かえることができたことは特に嬉しく、第1回生の卒業と同時に大学院が設置できたことは前例のないことで、大変に誇りに感じました。お陰で第1補綴学講座は順調に発展し、その後冠橋義歯学講座へと名称を変更し、最後は歯科補綴学講座へと統合され現在に至っています。

この間、平成4年4月には本学の藤が丘病院に歯科室が開設され、初代の科長として歯学部から出向することになりました。以来9年間、総合病院における歯科の役割を果たすべく邁進しました。平成13年4月に歯学部に戻り、新カリキュラムの作成、統合講義のコーディネーター、PBLの実施、共用試験CBTなど教育に主体的に関わりました。この間、第1回のCBTトライアルを全国に先駆けて最初に実施したことを嬉しく思っています。これらの業績が認められたのか、改正された上條奨学賞(教育活動)の歯学部第1号の栄誉を授かったことを誇りに思います。平成16年10月に歯科病院に複数の新設診療科ができ、「顎関節症科」も開設されました。私が初代の科長に就任し、以来今日まで顎関節症科の運営に当たってきました。毎日多くの患者が当科を受診し、毎月の延べ患者数は約500名、新患数は年間約700名と盛況を極めています。このように顎関節症科は、歯科病院にとって必要な診療科の一つであり、これに関ることができたことを感謝しております。



定年を迎えるにあたって

歯科保存学講座 久光 久

昭和46年東京医科歯科大学歯学部卒業後、総山孝雄教授の保存修復学講座に大学院生として入局し、昭和50年、助手に採用されました。この間、総山先生から教えられた親鸞の句「明日ありと思う心の仇(あだ)桜(さくら)、夜半(よわ)に嵐の吹かぬものは」は、今でも心に強く刻まれています。昭和52年に、創設される昭和大学歯学部への赴任を要請され、4月に講師として着任、6月に助教授、昭和62年に員外教授、平成3年に和久本貞雄教授の後任として主任教授となり、瞬間に定年を迎えました。和久本先生には Prof. Jorgensen (Denmark Royal Dental College) の元に1年間留学の機会を頂き、研究に没頭しました。帰国後に Prof. Jorgensen の名著「インレーとクラウン」を和訳し、日本語版出版しました。文部省に申請したところ、多くの日本人歯学教育者を受け入れ指導した Prof. Jorgensen に対し昭和61年に勲3等旭日小綬章が授与されましたが、その10年後に永眠されました。英国 Manchester 大学の Prof. Wilson から J. Dentistry の編集委員を委嘱され平成2年から10年間、昭和歯学会雑誌の編集委員は20年間も務めました。厚労省の歯科医師試験委員は12年間務め、第95回歯科医師国家試験委員長を拝命。医道審議会委員も12年間務め、平成15年1月には「米国における歯科医師国家試験制度の現状視察」でシカゴに派遣されましたが、帰国した日に恩師総山先生が永眠。平成17年に東京国際フォーラムで開催した日本歯科保存学会50周年記念大会の大会長を務めました。この時には昭和大学から多額の補助金を頂きました。口腔の健康維持が健康長寿に貢献できると確信し、予防とMIの大切さを訴え、歯科ドックや歯のホワイトニングの普及に尽力しました。日本歯科色彩学会、歯科審美学会の会長、アンチエイジング歯科学会副会長を歴任し、現在、歯科人間ドック学会、美容口腔管理学会、アジア歯科審美学会の会長を務めております。昨年は5月に恩師和久本先生が永眠され、今年2月には同僚の五十嵐武教授が逝去されました。ご冥福をお祈りします。図書館副館長、大学評議員も拝命し、多忙な35年でしたが在職中お世話になった多くの皆様に深謝し、篤く御礼申し上げますとともに、昭和大学の益々の発展を祈念しております。



久光先生・古屋先生退職記念講演が行われました

昭和歯学会常任理事 中村雅典

3月3日(土曜日)に今年度でご退職される久光久教授(歯科保存学)と古屋良一教授(歯科補綴学)の退職記念講演会として、昭和歯学会特別例会が昭和大学歯科病院第二臨床講堂で開催されました。

久光先生のご講演タイトルは「私とMIそしてホワイトニングとの関わり」で、これまでの歯科保存修復学ならびにその臨床の変遷について、これまでのご業績を踏まえながらご講演いただきました。特に、現在の歯科治療の主流である歯を削らない治療と審美歯科治療について、患者さんの疾患だけでなくメンタルまでを理解する治療方針についてのお話はこれからの歯科医療に非常に重要な観点であると思われま

す。古屋先生のご講演タイトルは「私と顎関節症との関わりについて」で、先生が顎関節症に興味を抱いたきっかけとなった学生時代の恩師の講義と大学院時代の研究内容から始まり、昭和大学に赴任されてからの藤が丘病院ならびに歯科補綴科、更には平成16年に設置された顎関節症科での臨床について熱くご講演いただきました。古屋先生の補綴治療だけでなく、顎関節症に対する知識と技量は卓越したものであることを改めて認識したご講演でした。

久光先生は昭和大学歯学部創設期の昭和52年、また、古屋先生は昭和58年に赴任され、これまで本学の発展のためにご尽力されてきました。お二人とも、種々の学内外の役職を務められ、昭和大学ならびに歯科界の発展に多大の功績を残されました。我々はこれまでのおふたりのご努力を損ねることなく、なお一層精進していかなくてはならないという思いを新たにしました。久光先生、古屋先生、長い間ありがとうございました。

第3回臨床実習終了時 OSCE (iOSCA) が実施されました

iOSCA 実行委員長 山本松男

3月1日、2日に第3回 iOSCA を実施しました。第1日目は旗の台1号館で医療面接およびバーチャルペーシェントによる診査・診断・治療方針に関する課題、第2日目は歯科病院地下1階スキルスラボにおいて、口腔外科・麻酔系、保存系、補綴系の技能系を中心とした課題を課しました。



一つ一つの技術・行動を評価する登院前の共用試

験OSCEの課題との違いは、歯科病院での臨床実習を通して何を学んだか、どのような臨床能力が身についたのかという側面からの課題である点です。

iOSCA では、知識と技術とが体系的に結びつき診療行為に至っていることの理解と実施能力を評価しています。これは本学歯学部がいち早く制定したコンピテンシー(歯学部卒業生が卒業時に有している臨床能力)を基にしています。コンピテンシーは、Ⅰ:プロフェッショナリズム、Ⅱ:コミュニケーションとチーム医療、Ⅲ:基礎医学・歯学の知識の習得と臨床への応用(生涯学習)、Ⅳ:医療面接と診察、Ⅴ:診断と治療、Ⅵ:ヘルスプロモーションの6つの大項目からなっています。卒後5年10年と経験を積んでいくと自然と身につくことばかりですが、臨床実習終了時にしっかりと評価をすべきと考えています。本年度も必要に応じて課題毎に再指導、フィードバック、再評価を課し、全員無事合格となりました。

カリフォルニア大学サンフランシスコ校でのレジデントサミットに参加いたしました

歯科矯正学教室 大学院4年小野美樹

2012年2月15日よりアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコで開催した、UCFC (University of California, San Francisco)との合同サミットに参加させて頂きました。UCFCの方々のあたたかい歓迎を受け、終始アットホームな雰囲気の中で合同サミットは開催されました。

レジデントの発表では症例検討と研究発表が行われ、症例検討ではお互いの症例を交換し、互いの分析や診断の違いを討論し合い、症例の問題点の捉え方の違いや治療方法の違いを学ぶとても有意義な時間となりました。研究発表では、共通するCBCTの研究が互いの研究を考え直させる機会となり、今後の研究の方向性を見つける刺激となったと思います。レジデントの発表の他にも、Dr. Hatcher(放射線学)やDr. Greenspan(病理学)など国際的に有名な先生方のご講演に続き、榎教授の開発したジルコニアブラケットの発表と、ハイレベルで充実した交流発表会となりました。UCFCの先生方との和やかであたたかい交流は、忘れられない貴重な経験となりました。このような機会を与えてくださった先生方に改めて厚くお礼申し上げます。



香港大学 5 年次学生が実習を行いました

Hong Kong University Ng Wing Man

In late February 2012, I was given a opportunity to have a short elective visit in School of Dentistry, Showa University. When I first arrived, I already felt the warmth and care by the people here. A well organized schedule had been made for me. Dormitory and meal were being considered. What surprised me most was that, the Dean came and spent time to greet me in the midst of his busy time. These show how staff in Showa University care for each exchange student. The impressive point after observing different clinics in Showa University is, how extensive the different Dental Disciplines cover. Showa university contains many departments that we do not have here in Hong Kong, for example, Department of Oral Rehabilitation, Department of Dental Anesthesia and Department of Cosmetic Dentistry. I was given a chance to observe all these departments. It is interesting that in Hong Kong, Oral Rehabilitation means Prosthodontics, but in Japan, it means treating those patients with functional problems such as dysphagia. It is my first time to see how dysphagia is being diagnosed and the assessment of it. I was also able to attend a talk on the screening, diagnosis and management of dysphagia. This made me learnt a lot.

Last but not least, I was given a chance to have a look on the famous robot, Showa Hanako, developed by Showa University. In Japan, patients are generally not so willing to be treated by dental undergraduate students, so Showa University developed a robot to cope with it. Showa Hanako can reproduce realistic treatment situation, such as moving, coughing and gagging. These provide a very realistic experience for the student and will improve their confidence in treating future patients. I think it would be a good idea if Showa University can develop a English version of Showa Hanako as soon as possible and sell it to international markets for the benefits of dental students all around the world.

Finally, I would like to say the School of Dentistry in Showa University is really a great dental school with excellent facilities, skillful and knowledgeable teachers and enthusiastic staff and students.



D5 メイクアップ講座が開講されました

歯学部マッチング支援委員会 佐藤裕二

社会人としての身なり・立ち振る舞いを向上させるために、2月27日の進級試験終了後に、旗の台キャンパスで「歯学部就職支援講座:好感度で差をつける身だしなみ・メイクアップ講座」が初めて開催されました。ハーバー研究所:廣森知恵子取締役の「清潔感のある身だしなみと立ち振る舞い」の講義の後、男子学生は本学薬学部OBでもある柴田浩樹取締役の講義を受け、女子学生は実習室でスキンケア&メイク実習を受けました。普段とは違う学生たちの真摯さと熱心さに感銘し、とても有意義であったと感じました。



入試結果報告

入試常任委員 井上 富雄

選抜Ⅱ期・センターⅡ期・編入Ⅱ期入試が2月26日(日)に実施されました。当日は曇りで肌寒い陽気でしたが、交通等の乱れはなく、平穩に試験が実施されました。選抜Ⅱ期・センターⅡ期・編入Ⅱ期入試の志願者は昨年より若干増えて、それぞれ63名・8名・4名となり、そのうち7名・1名・1名が合格しました。歯学部・薬学部・保健医療学部の3学部合同入試になって2年目となりましたが、以上をもちまして平成24年度入試が無事終了しました。ご協力いただいた職員の皆様、誠にありがとうございました。

診療統計(平成24年2月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,959	748.3	726.0	777.7
入院患者	438	15.1	13.8	16.7

行事予定

広報委員長 井上 富雄

4月 2日(月):進級式・白衣授与式(D5),
D2・D3・D4進級式, D5健康診断
4月 3日(火):D2・D3・D6健康診断
4月 4日(水):D4健康診断
4月 7日(土):大学院入学式
4月 9日(月):入学式

編集後記

歯科補綴学教室 樋口大輔

祝! 100号!! 編集を始めて気付きました。

最近は大学院生の活躍、国際交流が益々盛んになり、歯学部の勢いを感じます。年度末のご多忙の所原稿を頂きました皆様に感謝申し上げます。